

米子水鳥公園

レンジャー通信

水鳥公園の指導員(レンジャー)によるさまざまな活動をご紹介します。

☎米子水鳥公園 (☎24-6139)



森林の鳥もくつろげる環境

米子水鳥公園は、名前のとおり、主にコハクチョウやカモ類など水辺で暮らす鳥を観察できる公園です。しかし近年、森林で見られる小鳥も園内で確認されるようになってきました。

特に昨年の春には、これまで園内でほとんど見られなかったオオルリやキビタキをはじめ、4月から5月にかけての2か月間で、初記録の鳥が6種類も現れました。こんなことは初めてです。しかも、このうちの5種類は、森林で見られる小鳥でした。このことは、森林の鳥が利用できる環境が園内にできたことの表れだと思います。



さえずりも姿も美しい
オオルリのオス

1995年に開園した時は、園内に植えられた樹木は、どれも背が低い苗木でした。それが26年間かけて成長し、適度に手入れがされてきたことで、森林の鳥がくつろぐことができる環境になったのです。もちろん、園内の林はとても小さいので、森林の鳥が長期間住み続けることはできません。しかし、渡りの途中にひと休みするにはちょうど良かったようで、みんな数日滞在してくれました。



春の森林を代表する鳥
キビタキ

今年の春も、さらなる初記録の鳥が現れることを期待しています。特に、園内のジュニアレンジャーの森は要チェックです。

米子水鳥公園統括指導員 桐原 佳介

美術館通信

ミニチュアライフ MINIATURE LIFE 展

たなか たつや
～田中 達也 見立ての世界～

会期 4月23日(土)～5月30日(月)【会期中無休】

2017年にNHK連続テレビ小説『ひよっこ』のタイトルバックを手がけたことで知られる田中達也は、1981年熊本県生まれのミニチュア作家・見立て作家です。

こちらは、細長いパンを切って新幹線の車両に見立てた『新パン線』。よく見ると、人々はパセリの茂る町に暮らし、食パンのプラットフォームに立っています。作品はいずれも「発想の転換」をベースに、小さな人形と日常的な素材を組み合わせて作られています。

本展には、田中の代表作から新作まで選りすぐった約110点の写真と約50点のミニチュア作品が大集合。ありふれているのにちょっと不思議な、小さく広がる世界へぜひ遊びにお越しください。ユーモアあふれるタイトルにもご注目を！

☎米子市美術館 (☎34-2424、FAX 33-0679)



《新パン線》©Tatsuya Tanaka